

平成 28 年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
生涯学習推進基本講座【道東会場】事業報告

I 事業の概要

研修テーマ 地方創生を成し遂げる「地域を見つめる学び」の推進について
～持続可能な地域づくりのための「地域」に立脚した社会教育のあり方～

- 1 趣 旨 現在、社会教育においては、人口が減少していく中で生まれてくる生活課題、地域課題を予測し、その解決に取り組む学びを作っていくことが求められている。本研修では、この視点を深めるとともに、地域を見つめ、将来を見通す学びをいかに展開するかに焦点を当て、事業の企画や計画策定に関する基本的・実務的な知識や技術などについて理解を深め、各地域での実践につながる機会とする。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
北海道社会教育主事会協議会（十勝管内社会教育主事協議会）
- 3 協 力 北海道教育庁十勝教育局 十勝教育研修センター
- 4 期 日 平成 28 年 6 月 30 日（木）、7 月 1 日（金）
- 5 会 場 十勝教育研修センター（中川郡幕別町札内暁町 290 番地の 2）
- 6 参加対象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）生涯学習・社会教育関連施設職員、青少年教育施設職員、社会教育関係団体職員等 30 名
- 7 参加状況 30 名（社会教育関係職員 26 名、社会教育関係職員以外 4 名）

8 日 程

< 6 月 30 日（木） >

13:00	13:30	13:40	14:20	15:30	17:00
受付	開会式	説明	情報交流	講義	

< 7 月 1 日（金） >

9:30	10:00	12:30	13:30	14:45	15:30
情報提供	分科会	昼食	全体会	個別相談	終了

※ 個別相談について（希望制）
推進センター職員が、市町村の生涯学習・社会教育の推進に関わる中・長期計画策定等の個別相談に応じた。

9 活動の概要

(1) 説明「地方創生を成し遂げる」「地域を見つめる学び」の推進について

【説明者】北海道立生涯学習推進センター主幹 阿部 隆之

【内容】地方創生に寄与する「地域を見つめる学び」の可能性を踏まえ、事業企画のポイントや計画策定に向けた視点について、国や道の取組の方向性を交えて説明した。

(2) 情報交流・分科会①「地域の“いま”を知るための事業企画」

【ファシリテーター】北海道教育大学教職大学院教授 廣瀬 隆人氏

北海道立生涯学習推進センター主幹 阿部 隆之

【内容】地域の“いま”を知るための事業を作り出すために、必要となる社会教育職員の視点とは何か、また、どのような手法をもって事業を企画すればよいかを協議した。

情報交流・分科会②「将来を見通す学びを創る計画策定」

【ファシリテーター】北海道立生涯学習推進センター主査 川森 功偉

【内容】地域の将来を見通し、持続可能な地域づくりを担う人材育成をどのように進めていくのか、そのための計画策定の視点と手法とは何かを協議した。

(3) 講義「地域の“いま”を知り、将来を見通す学びを創る」

【講師】北海道教育大学教職大学院教授 廣瀬 隆人氏

【内容】地域住民が主体的に地域を創っていく学びをどのようにプロデュースすべきかについて、基本的な考え方や方向性を全国の事例を交えて示唆をいただいた。

(4) 全体会

【ファシリテーター】北海道立生涯学習推進センター主幹 阿部 隆之

【講師】北海道教育大学教職大学院教授 廣瀬 隆人氏

【内容】持続可能な地域づくりのための「地域」に立脚した社会教育のあり方について、それぞれの分科会の協議を共有するとともに、今後の方向性について講師から助言をいただいた。

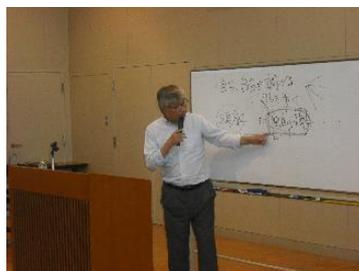
(5) 個別相談（希望制）

【対応】北海道立生涯学習推進センター主幹 阿部 隆之

” 主査 川森 功偉

【内容】

足寄町	社会教育計画策定における視点について
芽室町	人材バンクの活用について



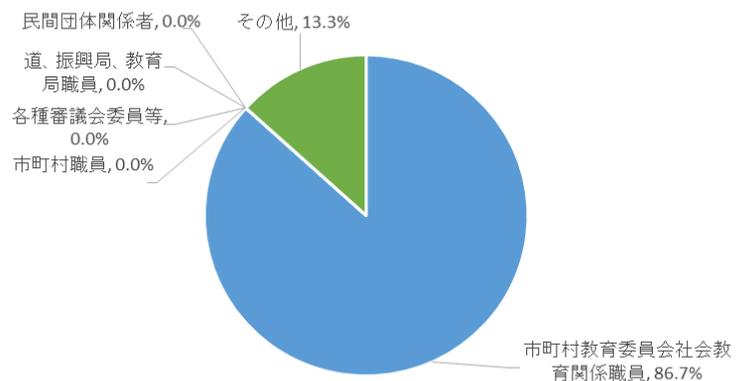
Ⅱ 事業の満足度

1 本講座参加者数 30名

(内訳) 社会教育関係職員の参加者数 26名 (86.7%)
社会教育関係職員以外の参加者数 4名 (13.3%)

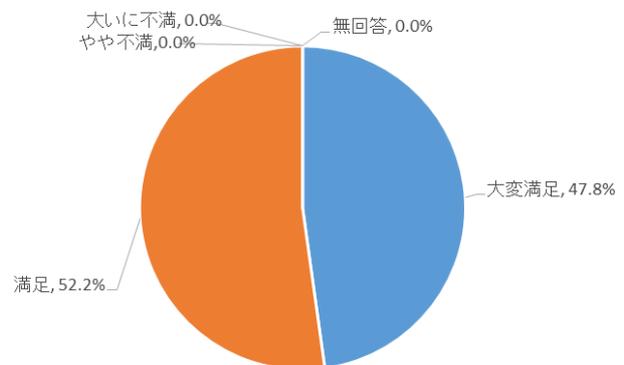
2 アンケート対象者数 30名 回答者数 24名 (回収率 80.0%)

参加者(所属)状況



3 講座全体をとおして

総合満足度	大変満足・満足 100%
-------	-----------------

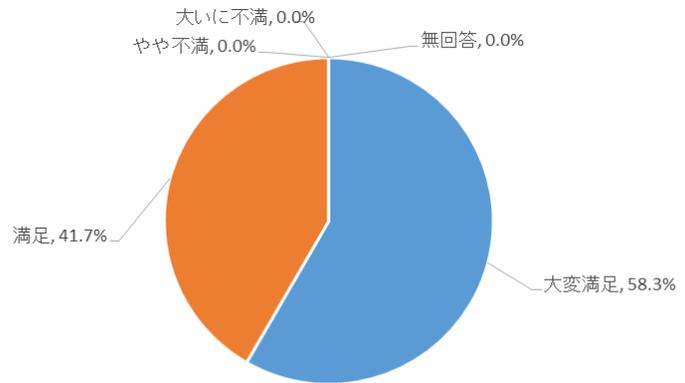


【参加者の主な声】

- 学びをどう創るか、継続するかを考えることができた。
- 講師の講話や分科会で、自分のまちの実情と照らし合わせながら考えることができた。
- 事業プログラムの作成について、新たな観点を学ぶことができた。
- 地域住民と寄り添い、仕事をしていく大切さを改めて感じた。
- 今後、計画を策定する上で、手法など色々と勉強になった。

4 研修プログラムの内容について

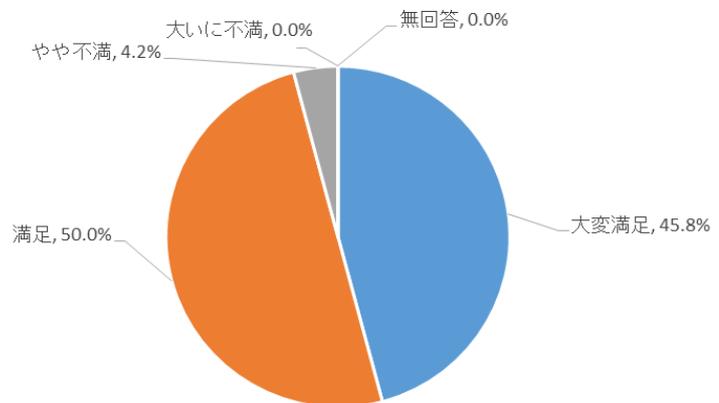
(1) 説明「地方創生を成し遂げる『地域を見つめる学び』の推進について」



【参加者の主な声】

- 本研修のねらいを明確にしてから臨むことができた。
- 人口減少問題の対策や社会教育行政職員としての役割がよく理解できた。
- 高齢者世代を支えるのではなく、力にしていくという考え方にとっても感銘を受けた。

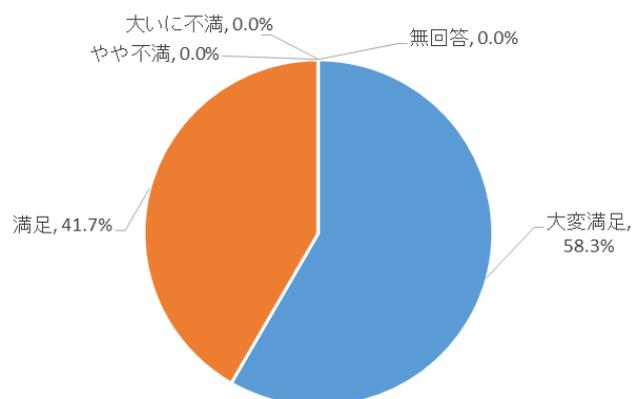
(2) 情報交流・分科会



【参加者の主な声】

- 地域住民が主体的に参加できるプログラムづくりのプロセスは、自分の町に持ち帰って検討できそうだった。
- 事業を色々な視点から見ることができた。
- ワークの時間が長く設定されていたので、自由な意見交換ができた。
- 今後の計画策定に向けて、基礎的なことを他町の考えを聞くことができ、意味のある計画、住民のための計画をつくりたいと思った。

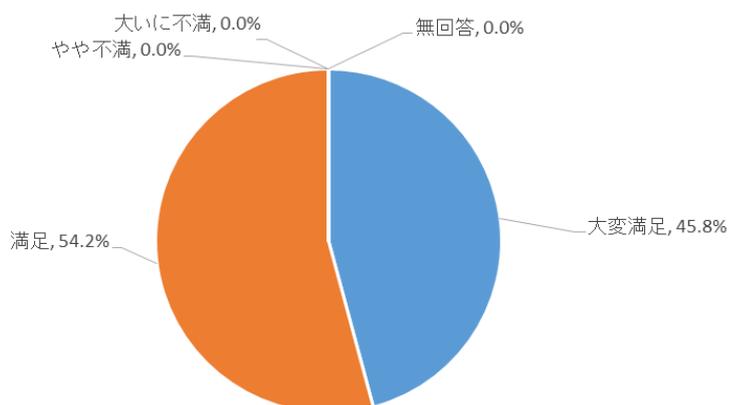
(3) 講 義「地域の“いま”を知り、将来を見通す学びを創る」



【参加者の主な声】

- 具体例を交えての講話であり、大変参考になった。
- 自分の町でも実践してみたいと強く思った。
- 住民とつながり、寄り添うことが大事なことを実感した。
- 今後の事業展開に役立つようなヒントを多く得られた。
- 時間が少し短縮されたのが残念だった。

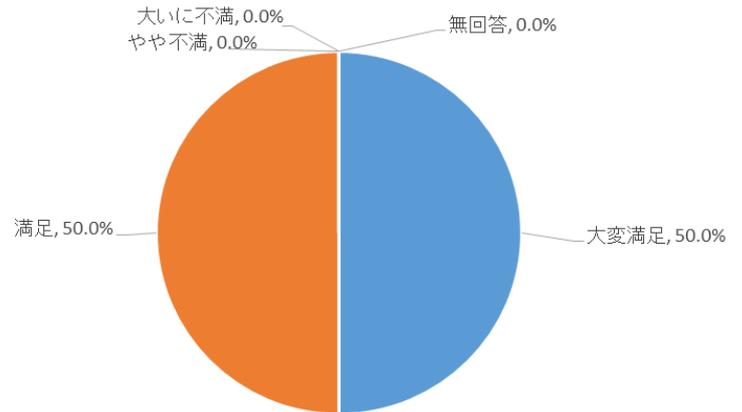
(4) 全体会



【参加者の主な声】

- 他の分科会の内容について、理解を深めることができた。
- 社会教育計画づくりを考える際に必要なポイント、社会教育委員との関わりなどについて、学ぶことができた。
- まとめとして、ふりかえることができた。

5 研修講座の運営について



【参加者の主な声】

- 臨機応変な対応と昼食時間の配慮等が良かった。
- 今後、さらに研修したいと思えた。
- スムーズな運営で、スタッフがとても親切だった。
- 研修会のテーマ設定が良かった。

6 その他、本講座をとおして気づいた点

【参加者の主な声】

- 地方創生に向けたヒントを学ばせていただいた。
- 他市町村の方と情報交換ができ、とても良かった。
- 社会教育計画を策定する上で、とても参考になった。

7 今後の要望等

【参加者の主な声】

- ・分科会で使用する用紙は、模造紙の方が良いと思う。
- ・講師の話がためになったので、次回も同じ講師が良い。
- ・市町村等で開催する社会教育主事、社会教育委員研修会等への講師派遣及び費用面での支援。